

《学校・家庭・地域で育てるビーミーっ子》

10月25日(土)のアートフェスティバル in ゆりのき(音楽の部)には早朝からたくさんの保護者、地域の方にお越しいただきました。学校規模や運営の関係上、4部構成の入れ替え制にも関わらず、ご理解ご協力くださったこと改めてお礼申し上げます。

子ども達は本番に向けて、一生懸命取り組んできました。事後の振り返りにもそのことが感じられる内容がたくさん書かれていました。

1年生は手話を取り入れ、優しい気持ちで歌いました。2年生はジャズのリズムで難しい変奏曲を演奏しました。3年生は自分達らしく元気に「怪獣のバラード」を歌いきりました。4年生は美しい歌声とノリノリの合奏で会場を沸かせました。5年生は迫力のある合奏で、6年生は難度の高い組曲の合奏で、会場から大きな拍手をいただくことができました。入場時の嬉し恥ずかしといった表情、退場時のやりきったという満足そうな表情から、この音楽会が子どもたちにとって貴重な経験となったことがよく伝わってきました。

保護者や地域の皆様の鑑賞の様子も会場を温かい雰囲気にしてくださいました。1部では入場時も拍手で迎えてくださいました。2部では子どもたちの演奏に手拍子が生まれました。そのほかにも身体でリズムをとっておられる方、顔の前で小さく手拍子をしてくださる方、演奏が山場に差し掛かると食い入るように見つめ、小さな拍手をくださった方、満面の笑みで見てくださる方、6年生の演奏が終わるとハンカチで目頭を押さえておられる方・・・本当に温かいひと時でした。ゆりのき台小学校はこのような温かい皆様に支えられていることを改めて感じました。ありがとうございます。これからもさまざまな取り組みを進めてまいります。引き続き、温かいご理解ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



【拍手が鳴りやまなかった6年生の合奏】

《食育とは・・・野菜が食卓に届くまでを知る》

ゆりのき台小学校は、児童数や学級数に比べ耕地面積が狭く、学級菜園での授業が困難です。このようなことから、花や野菜を育てる経験、学級菜園での理科の実験観察の経験が限られてしまいます。また、ビーミーっ子の多くは、野菜についてあまりよく知りません。料理としての野菜を台所や食卓で、商品としての野菜をお店で見ることはあっても、どのようにして作られているのか、どのようにして実っているのかについては、知らない、見たことがない子が大半です。そこで、子どもたちに野菜を見せ、興味を持ってもらおうと、今年度、校長農園を開墾しました。

夏にはなす、きゅうり、トマトなど、6品目11品種の野菜を植え、苗や花を写真に撮ってクイズにしました。多くの子が回答を校長室前のポストに投函してくれましたが、やはりなかなか正解が出ませんでした。落花生の写真は、大人を合わせても正解者は1人だけでした。先日の音楽会の時に収穫し、展示しましたが、葉っぱのついている落花生を見て驚く子、土の中にできることを知らなかった子がほとんどでした。

このような取り組みをするうちに、菜園を見に行く子が少しずつ増えました。中には実がぶら下がっているのを校長室まで教えに来てくれる子、おうちの方がプランターで家庭菜園をされていると教えに来てくれる子がいました。

現在は模様換えをし、13品目15種類の冬野菜が育っています。「白菜とキャベツ、レタスの違いは分かるかな」「キャベツとブロッコリーはわからないだろうな」など想像しながら子どもたちの反応を楽しみにしている毎日です。

医食同源という言葉があります。校長農園は有機栽培で、農薬も使っていません。元気な野菜をたべると元気になります。元気な野菜にはほぼ虫が来ません。肥料過多の野菜には虫が来て、それを退治するのに農薬をまくという悪循環が見られます。人間も同じです。健康であれば病気にかかりません。よく食べ、よく寝て、よく遊ぶ(よく学ぶも入れましょう)、睡眠や食事、運動は体づくりの基礎の基礎です。食育をもう一度見直してみませんか?食育といえば、栄養バランスや調理方法に目が行きがちですが、食材がどのようにしてできているかも立派な食育です。

見せるためですので、小さな農園ですが、子ども達にも見に来てほしいと思っています。ご家庭でも声かけをいただければありがたいです。また、よければおうちの方も、学校に来られたついでにお立ち寄りください。食材に興味を持つこと、これも立派な食育。豊かな食は学校の重点目標である「健やかな体」を育てます。

15品種すべてわかるでしょうか。挑戦してみてくださいね。おうちの方の食育への意識が高まると、食卓が変わり、子どもたちの育ちが変わります。興味ある方はいつでもお尋ねください。一緒に考えましょう。



【冬野菜が元気に育っています】